

## 通級ガイドブック作成について（案）

石隈利紀（東京成徳大学）

### 1 ガイドの対象

#### （1）担当教員のレベル

通級指導担当教員には、4つのレベルがあると考えます。

- ① インターン（研修）レベル・・・通級指導担当教員としては一人で仕事ができるレベルではない。指導者が必要。
- ② エントリーレベル（初級）・・・一人で仕事ができるが、経験が浅い。
- ③ スタンダードレベル（標準）・・・エビデンスに基づく教育方法に知りそれを使うことができる。
- ④ スーパーバイザーレベル（指導者）・・・通級による指導を標準レベル以上できるとともに、指導スキルも身につけている。

#### （2）ガイドのユーザー

ガイドのユーザーは①②と考えられます。したがって基礎的なこともコンパクトに含める必要があるかと思います。

## 2 ガイドの内容

通級指導教員に求められる業務の遂行についてのガイドになるかと思います。教科書・テキストというよりも実践のときに側における、自己チェックのようなものが考えられます。したがって、現場の通級指導や地域の発達障害支援で積み重ねた知恵やツールが示されるとよいと思います。

以下私の限られた知識で思いついたものです。S.E.N.S（特別支援教育士）養成カリキュラムを参考にしています。

### (1) 子どもと環境の理解（アセスメント）

子どもの発達の理解、障害の理解、成功体験・失敗体験の理解のポイント

観察のポイント（学習スタイル、注意の程度、情緒の安定・ストレス対処、

人との関わり等；学習への態度）・・・自助資源（強み）と援助ニーズ

指導結果、引き継ぎ報告書の読み方

心理検査の結果の読み方（WISC-IV、K A B C - II など）・・・知的レベルの

把握と得意な学習スタイル・行動スタイルの把握

学力のアセスメント

通常学級の様子を理解

援助資源マップの作成

### (2) 子どもの指導・支援

個に応じた指導と小集団の指導のポイント

「聞く・話す」「読む・書く」「計算する・推論する」の指導

感覚と運動の指導

自己理解、コミュニケーション、環境理解の指導

教材の作成と活用および共有と蓄積

子どもへの意欲を高めるフィードバックの方法

指導記録の作成・活用・保管

### (3) 子どもの援助チームへの参加・・・チーム学校での支援

「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成と活用

通常の学級担任との連携のポイント

保護者との連携のポイント

巡回指導教員、心理職、福祉職、医療職との連携のポイント

関係機関との連携のポイント

報告書・連絡ノートの書き方（事実と推論を分ける）

援助チームシート・支援シートの活用

コンサルテーションスキル（助言するスキル、助言を受けるスキル）

コーディネーションスキル（支援会議のメンバーとしてのポイントなど）

(4) 教員としての自己理解・自己点検

個人としての強み・弱み、教員としての強み・弱み

自分の得意な学習スタイル・行動スタイル（教授スタイルに影響する）

通級指導担当の仲間との学び合いのポイント

自分の心身の健康（子どもとの関わりに影響する）

燃え尽きないためのチェックリスト

☆資料として「教材・教具」「ツール」の紹介